

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成29年6月12日)

項目		ページ
1	農地中間管理事業の実施状況について 【経営支援課】	1
2	平成29年度第1回食のみやこ戦略チーム会議の開催 結果について 【とっとり農業戦略課】	2
3	主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	3
4	水辺の環境保全協議会の設置について 【水産課、農地・水保全課】	4
5	平成29年度第1回湖山池会議の開催概要について 【水産課】	5
6	「とっとりジビエ」の全県展開に向けた意見交換会の開催に ついて 【食のみやこ推進課】	6
7	一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】	7

農 林 水 産 部



農地中間管理事業の実施状況について

平成29年6月12日
経営支援課

国において、農地中間管理事業の平成28年度事業実績が5月23日に公表されましたので、鳥取県の状況を報告します。

1 農地中間管理機構の借入・転貸面積の状況 (H29.3月末現在)

○平成28年度の全国の事業実績は、5月23日に官邸の「農林水産業・地域の活力創造本部」で報告、公表された。

○本県の農地中間管理機構である(公財)鳥取県農業農村担い手育成機構(以下、「機構」)の平成29年3月末現在の借入、転貸面積の状況は次のとおり。

(単位：ha)

区分	年間集積目標面積 ①	全耕地面積 ②	機構借入面積 ③	機構の転貸面積 ④	うち新規集積面積 ⑤	年間集積目標面積に対する寄与度 ⑤/①	左の全国順位
全国	149,210	4,471,000	42,195	43,356	19,277	13%	—
鳥取	1,090	34,700	724	744	388	36%	3位

○年間集積目標面積に対する寄与度(年間集積目標面積に対する担い手農家への新規集積面積の割合)は36%であり、全国での順位は3位(H26：8位 H27：9位)となっている。

(1位：福井県、2位：秋田県)

○これは、機構を中心に市町村をはじめとした関係機関で人・農地チームを設置し、農家への制度周知(ケーブルテレビ放映、新聞広告)や地域における構造政策を進めてきた成果である。

2 今年度の推進方針

(1) 人と農地の問題解決に向けた人・農地チームでの推進

○平成28年度に市町村毎に組織した人・農地チームを一層機能させ、集落等における話し合いの推進を図る。

(2) 担い手育成、支援の強化

○新規就農者の定着や担い手の法人化、集落営農体制の充実を引き続き支援し、農地の利用集積を推進していく。

(3) 土地改良事業と連携した農地集積の推進

○農地中間管理事業と連携した耕作条件改善のための基盤整備事業等を活用し、担い手への農地集積を推進する。

平成29年度第1回食のみやこ戦略チーム会議の開催結果について

平成29年6月12日
とっとり農業戦略課

本県農林水産物の強みを活かしたブランド戦略を構築・推進し、生産者の所得向上を目指した取組を進めるため、以下のとおり、平成29年度第1回食のみやこ戦略チーム会議を開催しました。

1 開催概要

- (1) 日時 平成29年6月2日(金) 午後2時30分～4時30分
 (2) 場所 県庁第21会議室(県庁第二庁舎9階)
 (3) 出席 民間有識者(株)工業市場研究所、(株)はなふさ、(株)ふるさと鹿野、いなばのジビエ推進協議会、県漁業協同組合、日本きのこセンター、鳥取中央農協、全農とっとり統轄監、農林水産部長 ほか

(4) 概要

ア 報告事項

(ア) 28年度の県産トップブランドの動き・成果

<主なもの>

- ・子牛競り平均価格史上初の100万円超
- ・「特選とっとり松葉がに五輝星」初競り額が史上最高値の130万円
- ・「鳥取茸王」の有名百貨店での定番販売の実現
- ・「新甘泉」が高値を維持(H28単価(進物含)519円/kg)
- ・「大山プロッコリー」のGI申請

(イ) 鳥取県中部地震からの産地復興(「王秋」の生産振興、「琴浦サーモン(仮称)」のブランド化促進、「白バラ認証制度」によるブランド力の向上)

イ 検討議題

品目別ブランド戦略の方向性について

品目名	今後の取組方向性(主なもの)
鳥取和牛	宮城全共後の首都圏を中心とした販売戦略の強化
鶏肉	酉年にあわせ、県内外でのレストランフェアや新たな駅弁の開発など
ジビエ	県内食肉処理場のHACCP認証など衛生管理の向上、全県的なジビエ振興体制検討
松葉がに	「五輝星」の細やかな色合い(薄焼け)についての基準の統一
新たな水産物	「墨なし白いか」の愛称公表によるPR・価格向上
きぬむすめ	高級百貨店等での常設やカタログ販売等による県産米知名度向上
新甘泉(梨)	安定生産に向けた体制の整備、首都圏の高級フルーツ店販売等による知名度向上
輝太郎(柿)	早生柿の特徴を活かし、高級フルーツ店、有名百貨店での定着に向けたプロモーション
原木しいたけ	乾しいたけの有力販路の確保、全農乾椎茸品評会等によるPRイベントの開催

ウ 出席者からの主な意見

- 和牛について、地方でブランド戦略が成功しているところは、地元での取組がきちんとできている。東京での販売も重要だが、地元旅館や飲食店など県ぐるみの取組が必要。
- 地鶏は、酉年で新聞・雑誌・テレビに多数取り上げられており追い風が吹いていると実感。この流れに乗って羽数を増やし、地域の活性化にも繋げていきたい。
- 政府でもジビエ振興の取組を進めており、HACCP認証など鳥取が先行してやっていくことでブランド化につなげていければと思う。
- 五輝星は極めて希少。五輝星の基準は変えるべきではないが、色合いが少し悪いというだけで五輝星から外されているものもあり、色合いについて統一基準の徹底が必要。
- 新甘泉は、発売開始から約10年経過。県や鳥取大学、生産部会代表者等と共に生産から販売まで協議しながら進めてきた。重点市場の担当者とのやり取りの中で安定した価格での販売を続けている。
- 鳥取県は全国的にみて柿の大産地ではないことから、他産地から優良な新品種が出る前に東京でのブランド化を進める必要がある。

2 今後の対応

- 有識者からの意見を今年度の各品目ごとのブランド販売戦略に活かし、県産品のさらなる付加価値向上と販路拡大を目指します。

主要農産物の生産販売状況について

平成29年6月12日
生産振興課

6月6日現在での主要農産物の生産販売状況について報告します（全農とっとり販売速報より）。

1. らっきょう

- (1) 栽培面積：182ha（前年比98%）
→JAいなば113ha、JA中央66ha、JA西部3ha
- (2) 生育状況：1、2月の豪雪の影響が懸念されたが、4月以降気温が高めに推移し、平年並みの生育となった。
- (3) 出荷時期：初出荷は5月22日と前年同日、6月下旬で出荷終了予定。
- (4) 販売状況：前年同様、本年も他産地が不作傾向により数量が少なく、単価は前年を上回っている。
※平年産以上の出荷数量が見込まれており、今後の販売が期待される。

区分	5月23日～6月6日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	1,251	679	849
28年度	1,437	638	918
前年比	87%	106%	92%

2. すいか

- (1) 栽培面積：288ha（前年比101%）
→大栄175ha、倉吉98ha、東伯8ha他
- (2) 生育状況：豪雪の影響による圃場準備の遅れから定植期間は平年よりやや伸びたが、その後は日照量が平年より多く、4月の平均気温も平年より高かったことから前年並みの生育となった。ハウス、トンネル共に着果は概ね良好で、出荷始めの肥大は、3L中心2L寄りの球流れが予想される。
- (3) 出荷時期：各産地の初出荷は前年並みとなった。
→大栄5月31日（前年6月1日）、倉吉6月2日（前年6月1日）
- (4) 販売状況：単価は前年並み、数量、販売額は前年を上回っている。

区分	5月31日～6月5日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	1,060	231	245
28年度	869	232	202
前年比	122%	99%	121%

3. 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ78ha（前年比98%）、夏ねぎ77ha（前年比91%）
秋冬ねぎは集計中（前年面積235ha）
- (2) 生育状況：春ねぎは、豪雪の影響により出荷が減少した。夏ねぎは安定した天候が続く順調に生育している。
- (3) 出荷時期：春ねぎ初出荷は3月8日（前年2月29日）と遅れ、夏ねぎ初出荷は5月25日（前年6月1日）と早まった。
- (4) 販売状況：全国的に品薄の影響等から、順調な販売となっている（前年はかなりの高単価の年であった）。

区分	4月1日～6月5日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	1,309	370	484
28年度	1,214	435	528
前年比	108%	85%	92%

4. 初夏どりブロッコリー

- (1) 栽培面積：169ha（前年比103%）
- (2) 生育状況：定植、生育とも順調に進んだが、5月の降水量が少ないため、出荷が鈍化している。
- (3) 出荷時期：初出荷は4月26日と前年同日となった。
- (4) 販売状況：全国的に降水量が少ないことから、各産地とも出荷が遅れ、品薄状態となっており、順調な販売となっている。

区分	4月27日～6月5日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	889	345	306
28年度	947	360	341
前年比	94%	96%	90%

水辺の環境保全協議会の設置について

平成29年6月12日
水産課
河川課
農地・水保全課

- 千代川・天神川・日野川の各水系全体の生態系を豊かにするために、関係機関が河川環境や生物・生態系保全等に関して情報を共有し水辺の環境保全の推進及び実施について協議することを目的とし、6月5日に「水辺の環境保全協議会」を新たに設置しましたので報告します。
- 今回の協議会では、協議会の設置に対する関係機関の了承を得るとともに、水辺の環境保全のために協議する内容等について決定しました。

1 協議会の概要

名称：水辺の環境保全協議会
目的：千代川・天神川・日野川の各水系全体の生態系を豊かにするために、関係機関が河川環境や生物・生態系保全等に関して情報を共有し水辺の環境保全の推進及び実施について協議する。
協議する事項：①多様な河川環境の保全に関すること。
②河川の連続性・魚類等の遡上阻害改善に関すること。
③魚類等の減少・不漁原因及び漁場改善に関すること。
④その他、目的を達成するために必要な事項に関すること。
会 員：漁業協同組合、国（国土交通省河川国道事務所等）、県（河川課、農地・水保全課、緑豊かな自然課、水産課、各地方機関担当課）、専門家・学識経験者
事務局：県（水産課、河川課）

2 協議会での協議内容と結果

《協議内容》

議事1 協議会の設置について	・・・協議会の設置に関する関係機関への意向確認
議事2 生物・生態系保全等について	・・・生物多様性について情報提供
議事3 河川環境と多自然川づくり	・・・多自然川づくりの説明と県の取組の紹介 →既設魚道、H29 水辺のネットワーク事業等の紹介
議事4 魚類等の遡上阻害と改善について	・・・遡上状況説明と魚道整備改修箇所を考え方(案)提案
その他 アユ資源緊急回復試験について	・・・H29 アユ資源緊急回復試験の紹介

《協議結果》

- ・水辺の環境保全の推進・実施のための協議の場として協議会の設置が了承された。
- ・水辺の環境保全のための具体的な方法等は、部会を水系（千代川、天神川、日野川）毎に設置して検討することです承された。
- ・専門家及び学識経験者の協議会への参加について了承された。
- ・生物多様性について説明を行い、関係機関の理解を得た。
- ・多自然川づくりの取組（魚道設置含む）について説明を行い、関係機関の理解を得た。
- ・アユの生息環境調査やカワウの被害実態把握などの「アユ資源の緊急回復試験」について説明を行い、関係機関の理解を得た。
- ・魚道の整備改修方針として、これまで設置した魚道の検証を行うとともに、遡上阻害のある堰などにおける魚道等について、あらかじめ整備の必要な範囲や対象魚種を決めた上で、原則、河川本流の下流側から整備を行うことに決定した。

3 今後の協議会・部会開催の予定（案）

時期	内容
6月下旬 ～9月	水系ごとの部会の開催（随時） ・河川の環境保全で問題となる施設などの詳細確認（現状確認、事業化可能性等） ・施設管理者との調整 ・整備計画（案）（箇所、手法、順位）の検討 等
10月	水辺の環境保全協議会（第2回）の開催 ・整備計画（案）の決定

平成29年度 第1回 湖山池会議の開催概要について

平成29年6月12日
水・大気環境課
河川
水産振興局水産課

6月1日(木)に平成29年度1回目の湖山池会議を開催したので、その概要を報告します。
(出席者：県 野川統轄監ほか関係部長、市 羽場副市長ほか関係部長、環境モニタリング委員会 南條委員)

1 今年度の水質管理の方針について

(1) 塩分管理

溶存酸素の確保に最大限配慮し、将来ビジョンに定める塩分濃度範囲での管理をめざす。

(2) 水門操作

より塩分濃度が低く溶存酸素が多い表層部分の海水を取り入れるオーバーフロー構造に水門を改築し、5月末から本格運用を開始した。これまでと同様に溶存酸素を監視しながら、よりきめ細やかな水門操作を行う。

2 将来ビジョン推進計画の進捗状況等について

平成24年1月の湖山池将来ビジョン策定から5年が経過したため、同計画に定める水質指標の達成状況及び水質浄化対策の進捗状況を確認した。

(1) 塩分濃度の管理

平成24年度及び25年度は、塩分濃度を将来ビジョンに定める目標範囲内で管理できなかったが、切欠通水を用いたきめ細やかな水門操作を実施したことなどから、近年3年間は年間を通じて将来ビジョン目標範囲内で管理することができた。

(2) 水質指標の達成状況

平成25年度は赤潮の大量発生等によりCOD、全窒素及び全りんが高値となったが、近年3年間は概ね改善傾向で推移し、CODについては、平成28年度に目標値を達成した。

⇒ 同計画で定めている、水質浄化対策が概ね予定通り(目標の50%程度)実施されている成果と思われる。

主な各種水質浄化対策

- ・陸域からの汚濁負荷の低減対策：下水道整備・接続促進など
- ・湖内の環境改善に資する事業：A・Dの浚渫、なぎさ護岸(浅場造成)など
- ・住民による活動の支援：7/30のグランドの実施(住民による清掃活動支援) 各種環境学習の推進、ジギング活動の推進など

⇒ 今後も関係機関が連携し水質浄化対策を継続して実施するとともに、同計画の進捗確認、見直し等を行いながら水質改善に取り組む。

3 湖山水門の運用開始について

平成29年3月末に改修が完成し試験運用を行ってきた湖山水門について、5月26日(金)から本格運用を開始した。

○水門改築の効果及び今後の運用について

- ・オーバーフロー構造としたことにより、塩分上昇の抑制と溶存酸素の確保に改善効果が見込まれる。また、開度変更の操作が電動で行えることから、より迅速で容易な水門操作が可能となる。
- ・今後も今までと同様、溶存酸素の監視や効果検証等を行いながらよりきめ細やかな操作を行う。

4 湖山池におけるヤマトシジミの漁獲量・資源増殖策について

(1) シジミの漁獲状況について

- ・平成27年に推定資源量(55ト)の半分以上を漁獲(約33.7ト)したことなどにより、平成28年の漁獲量は9.6トと大幅に減少した。
- ・今年は、平成27年生まれの個体が、順次漁獲サイズに達するため、昨年並みの漁獲が見込まれる。

(2) 資源増殖策について

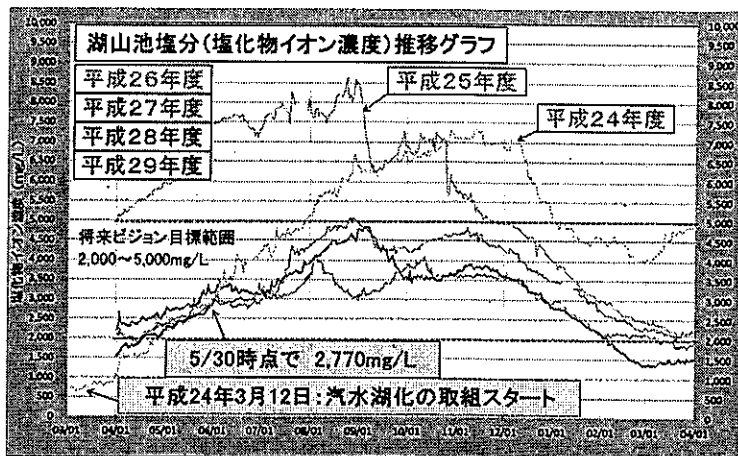
資源の回復を図るため湖山池漁協は、資源管理の強化や人工採苗を実施する。

- ・漁獲量を制限強化(1人1日あたり5kg:これまででは10kg)するとともに新たな禁漁区域を設定した。
- ・シジミの幼生を確保するための採苗器を設置し稚貝まで育成させて、成長に適した場所に放流する。

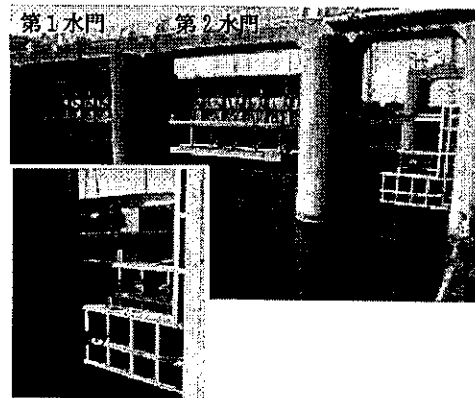
5 湖山池の利活用について

今年度、湖山池周辺において実施される各種イベントについて鳥取市より報告があった。今後も地域住民による活動の支援を行うことにより、水質浄化への意識高揚を図る。

- ・春 青島お花見ツアー、春の湖山池シーズンウォーク、フラワーフェスティバル など
- ・夏 鳥取市民レガッタ兼鳥取市民体育祭ボート競技、少年・少女ヨット・カヌー教室 など
- ・秋 秋の湖山池シーズンウォーク、花と緑のフェア、湖山池一周駅伝競走大会 など
- ・冬 湖山池の野鳥観察、野鳥フィギュア作り、湖山池の味覚を楽しむ会 など



区分		H28年度 年度 統計値	ビジョン計画 目標値(H33年度)
COD (化学的酸素要求量)	75%値(mg/L)	5.5	5.5以下
全窒素	年平均値 (mg/L)	0.67	0.60以下
全りん	年平均値 (mg/L)	0.092	0.066以下
透明度	4~11月平均値 (m)	0.77	1.00以上



年月	シジミ 漁獲量 (kg)
H26(6月-12月)	20,205
H27(1月-12月)	33,670
H28(1月-12月)	9,600

「とっとりジビエ」の全県展開に向けた意見交換会の開催について

平成29年6月12日
食のみやこ推進課

鳥取県産のジビエ活用については、平成24年5月に「いなばのジビエ推進協議会」（当時は連絡協議会）が発足し、これまで県東部を中心に取組が進んでいますが、県中西部においても、料理人などを中心にジビエ活用の機運が高まっています。

このようなことを踏まえ、「とっとりジビエ」の全県展開を進めるため、県内のジビエ関係者が一堂に会し、川上（処理施設）から川下（飲食店）まで、情報を共有する意見交換会を下記のとおり開催しました。

記

1 日時 平成29年5月31日（水）13時30分～15時

2 会場 鳥取県中部総合事務所 講堂

3 主な出席者（約60名が出席）

<処理施設>

わかさ29工房（若桜町）、日本猪牧場（倉吉市）、緑水園（南部町）

<ジビエ関係組織>

鳥取県猟友会、いなばのジビエ推進協議会

<料理人・飲食店>

全日本司厨士協会鳥取県本部米子支部（米子全日空ホテル、大山ロイヤルホテル）

鳥取県調理師連合会 惣和会（山紫苑）、松風荘旅館（倉吉市）

<市町村>

鳥取市、倉吉市、米子市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、北栄町、琴浦町、大山町、南部町

<その他>

辻調理師専門学校、鳥取銀行、サンマート、鳥取県こだわり物産販売協同組合 等

<県>

市場開拓局、生活環境部、農林水産部、東部振興監、各総合事務所（地域振興局、農林局、生活環境局）

4 主な意見と今後の取組方針

(1) 捕獲・解体処理技術の向上・普及

- ・若手狩猟者をはじめ、幅広い範囲での猟師の育成が必要。
→ハンター育成スクールを開講し、捕獲された獣肉を活用するためのスキルアップを図る。
- ・ジビエの安定供給・安全安心を確保するため人材育成が必要。
→「いなばのジビエ推進協議会」主催の解体処理研修等に中西部からも参加するなど、全県的にノウハウを共有

(2) HACCP認証など衛生管理の向上

- ・首都圏などへの販路拡大を進めるためには、HACCP認証など安全安心の担保が重要。
→県版HACCP取得予定の「わかさ29工房」を視察するなどして、加工技術の向上を図る。

(3) 供給量・価格の安定化

- ・学校給食や一般家庭での普及を進めるためには、安定した価格と供給量の確保が必要。
→利用率（解体数/捕獲数）の向上による供給量の確保、価格の安定化を図る。

(4) 中西部におけるジビエ振興の体制構築

→今後、検討

(5) その他

- ・猟師、処理場、飲食店など川上から川下までの更なる連携が「とっとりジビエ」の普及に繋がると思う。
- ・とっとりジビエと県産食材やワインとの組み合わせ、和食での提供など、様々な食べ方を提案することも重要。
- ・高価な部位は付加価値を高めてブランド化を進めるとともに、安価な部位は一般家庭の消費者に使いやすいメニューを提案するなど、価格帯に応じた販売戦略が必要。
- ・ブランド化に向けてジビエの価値観を作っていく、他地域や他食材との差別化を図ることが重要。
- ・ジビエについては全国的な動きもあるので、その動向を注視しながら、「とっとりジビエ」のブランド化を進めることが重要。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成29年6月12日
農地・水保全課

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	備考
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	平成28年災下蚊屋ダム施設災害復旧工事(201/50) O	日野郡 江府町 下蚊屋	平成28年災下蚊屋ダム施設災害復旧工事(201/50) 美保テクノス・みどり建設特定建設工事共同企業体 美保テクノス株式会社 取締役社長 野津一成	184,700,000円 (設計額 169,589,160円) 落札率 97.12%	平成29年5月29日 ~ 平成30年2月15日	平成29年5月26日	【工事内容】 台船塗装工 コンクリート版 V=117m3 法枠 L=567m モルタル吹付 A=654m2 布製型枠(台船:水中施工) A=429m2 アンカー工 仮設工 鉄筋挿入(L=3m/本) 119本 1式	制限付一般競争入札 3社 平成29年5月16日 開札

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	備考
農地・水保全課 (東部農林事務所)	大口堰地区河川工作物応急対策事業(頭首工改修)工事	高取市 円通寺	中央建設株式会社 代表取締役 西田 正人	(当初契約額) 113,184,000円 (第1回変更後契約額) 120,766,680円 (変更額) 7,582,680円	平成28年8月17日 ~ 平成29年5月30日 (変更後工期) 平成29年6月15日	(当初契約年月日) 平成28年8月17日 (第1回変更契約年月日) 平成29年3月30日 (第2回変更契約年月日) 平成29年5月30日	農業用取水堰改修工事 護床ブロック工 326個 魚道改修 1箇所 仮設工 仮締切工 1式	○変更内容(工期延期) 仮設用土その他工事に有効活用するため、近傍の造成工事現場内に仮置きすることとしていたが、当該造成工事の遅延により仮置きできる時期が延期となったことに伴い工期を延期するもの

